

(別記様式)

平成23年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力を身に付けさせる。 2 専門学科の充実と発展に努める。専門教科・普通教科の学習を通して、生徒の実態に即した適切な指導を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。 3 特別活動等を通して、豊かな心をはぐくみ健全な心身の発達を促す。 4 地域に根付く後継者の育成と地域の文化を支える能力の育成を図る。	【成果】 ・教材・授業方法を工夫することで基礎基本を重点に置いた授業展開ができた。 ・卒業生すべての希望進路の実現ができた。 ・専門学科の授業を通して理論と実践を結びつけながら、専門教育の充実が図れた。 【課題】 ・生徒個々の実態を把握することで中途退学の防止を図る ・1年生よりキャリアガイダンスの充実を図る	1 基礎学力に重点を置いた教材の準備や指導方法の工夫。 2 地域との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。 3 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 4 学校行事の充実・活性化を進める。 5 課題をかかえる生徒に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路の実現を図る 6 安心安全な学校づくりを進める。

総合評価 A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 D ほとんど達成できなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校教育目標の具現化に努める。	学校経営改善のための積極的な取組を進めることにより、すべての分野で前進させる。	B	週1回の職員会議・職員研修を通じて教職員の意志疎通を図り、共通認識のもと計画的な教育活動を進めることができた。
		定期的な教育実践の点検・検証	B	
	組織体制を機能的にする。	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、相談の徹底	B	
		教育活動全般の組織的・計画的実践 教職員協調・協力の下、教育活動を進める。	B	
教育課程	生徒及び地域の実態を踏まえ、学校の特色を生かした教育課程を編成する。	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。	B	平成25年度教育課程編成にむけて、先行実施の数学・理科とともに教育課程を見直すことができた。今後入学生徒の実態に合わせた教育課程の編成を平成25年度完全実施に合わせて作成していきたい。
		生徒の進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。	B	
		前年度の評価・反省に基づく改善を行う。	B	
		適切な教育課程になっているか、常に点検をする。	B	
教科指導	各教科の目標を明確にし、計画的な指導を行う。	年間指導計画に基づき、計画的に指導を行う。	B	公開授業期間を設けて公開授業を実施することができた。今後支援を必要とする生徒が増えている中、支援を必要とする生徒に対する対応についても、検証していく必要があると考えている。また、学習習慣の確立していない生徒が多い中、補習を実施してきたが、年度当初から計画的に実施していく必要があると考える。
		授業公開・授業研究を通して、授業改善に取り組む。	B	
	学力の充実・向上	常に、生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。	B	
		各学期末毎に年間指導計画の点検を行い、必要に応じて随時見直す。	B	
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。	B	最大の行事である文化祭を、全校まとまった取り組みにより、成功させることができた。また、その他の学校行事についても、生徒会役員の活動により成功させることができた。
		担任団でホームルーム経営の相互評価を行い改善・工夫に努める。	B	
		ガイダンスの機能の充実の取組を進める。	B	
	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭を全校あげて取り組み、成功させる。	B	
自主的な生徒会活動を目指す。	学校行事等で一人一人が主役になれる指導を進める。	B		
	生徒会活動を通して自主的な力を付けさせる。	B		
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に合った希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。	B	4年生の進路について早期から指導することにより、全員の希望通りの進路先を決定することができた。また、下級生については早期より進路を意識づけするため外部講師を招いて進路説明会を実現することができた。
		希望進路の把握と指導を強化し、全体のガイダンス・個々の指導を充実する。	B	
		口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。	B	

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
生徒指導	問題事象の未然防止、早期発見ができる体制作りを進める。	各分掌との連携を深め、問題行動の予防や、早期発見に努める。	B	B	年度当初は問題事象が多発したが全教職員共通理解の元、指導に当たり再発防止に努めた結果、6月以降は生徒も落ち着き減少した。例年実施している本校・分校合同文化鑑賞は今年度に限り実施できなかったが来年度は再度合同で実施する予定である。
		地域や関係各機関との連携を密に問題行動に対し素早く対処できるようにする。	B		
		社会的常識が理解でき、実践できるよう言葉使いや身だしなみなどを指導する。	B		
	深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	相手を思いやる心を育て、いじめを許さない態度を身に付けさせる。	B	B	
問題事象の具体的指導を通じて生徒自身の内面に迫り、よりよい人格の形成を目指健全な文化に触れさせ豊かな人間性を育成する。		B			
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	身近にある差別問題や自分を取り巻く社会の矛盾と人権問題について学習する。	B	B	人権学習は各学年の実情にあった内容で行えた。しかし、その学習内容が日頃の生活の中で有効に機能したかについては不十分な状態である。生徒各人が、日頃から強い人権意識を持てるような指導が今後の課題である。
		自分たちの進路と人権問題の関わりを明確にし、差別のない明るい社会を切り開く能力を身に付けるための学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。	C		
		教職員が基本的人権や人権問題について認識を深めるために校内研修を実施したり、情報を発信	B		
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	「読書ニュース」や「おすすめ図書冊子」等を発行し、読書への興味を持たせる。	B	B	生徒が興味を持つであろう閲覧用図書や雑誌を購入したが、利用状況はさぶる悪い。生徒の読書意欲をどう持たせるかが課題である。
		図書及び図書室の整備を行い本を読みやすくする。	B		
		幅広い分野の図書・視聴覚教材を購入する。	B		
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備する。	セキュリティ対策に努める。	B	C	情報管理については常から注意を喚起した。学校のホームページ更新やPTAお知らせメールの活用がうまくできなかった。校務システムの活用が軌道に乗り始めた。
		パソコン及び周辺機器の環境を整え、情報科目を充実させる。	C		
		分校ホームページの更新を積極的に行う。	C		
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導力の向上、生徒の学習意欲を高める研修を行う。	学校の課題にあわせた校内研修を行い、指導力の向上を図る。	B	B	学校の課題にあわせた行内研修を実施することができた。外部講師・定通研等を通してさらに研修の機会を増やして生きたい。
		公開授業や定通研を通して、指導の充実を図る。	B		
		外部講師などにより、研修の充実と工夫を図る。	B		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高めるために体の健康と心の健康に関する指導をする。	健康・安全に関する教育を計画的に進める。	C	C	個々に応じての、決め細やかな指導を実施することが十分にできなかった。次年度は、具体的にわかりやすく、丁寧な取り組みを行うと共に、支援に関わる論議についても、教育相談会議で行っていきたい。
		生涯の健康保持増進につなげる実践的な健康指導の充実	C		
		スクールカウンセラーを活用し、充実した教育相談体制を確立する。	C		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。	B	B	教職員が交代で日直にあたり、帰宅直前に校内点検・見回り日常の点検を実施した。生徒への防災教育が避難訓練等未実施に終わった。
		地域や関係機関との連携を密にする。	B		
		防災教育等防災教育を計画的に進める。	C		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して生きる力を身に付ける。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。	B	B	実習を中心とした、実践的な授業を展開することができた。生徒個々の学習能力に差があり、力に応じた指導が必要である。学科発表会を通して、コミュニケーションやプレゼンテーションの力をつけさせることができた。農業クラブでは、昨年以上に各種競技会や講習会に参加することができた。野菜苗を中心とした農産物販売は地域に定着している。
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。	B		
	地域の発展を考え、実行できる意欲と能力を育てる。	個々の生徒の実態に応じた学習内容の工夫をする。	B	B	
		農業クラブ活動を活発なものにする。	B		
家政科	家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。	学習効果をあげる適切な教材を工夫する。	B	B	個々の生徒の個性を理解し、その生徒の良さを発見し伸ばす指導に力点を置く事ができた。分校に来るまで教室で授業が受けられなかった2名の卒業生は、4年間の集大成「課題研究」の調査・研究結果を堂々と人前で発表ができるまで成長した。次年度は、不登校の生徒だけでなく男子生徒も学科に入学してくる関係で対応のみならず教材等の工夫も必要になってくる。
		体験的な学習の機会を設定する。	B		
	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	学習の遅れがでないよう適切に補習を実施する。	B	B	
		福祉施設等の協力を得て地域での実習を実践する。	B		
		4年間の集大成として課題研究に取り組む。	B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策				
第1学年部	基本的な学力や生活習慣を身に付け、学習及び就労に積極的に取り組む。	生活習慣を確立させる。	B	B	B	学校生活でははじめある行動を取り、就労や学校行事を通して一人一人が入学当初よりも着実に成長することができた。学習習慣の確立と基礎学力の定着、家庭との更なる連携に今後は取り組む必要がある。
		基礎学力を身に付けさせる。	B			
		就労や学校行事等を通して、美山分校の生徒としての自覚をもたせる。	B			
		家庭との連携を深める。	B			
第2学年部	他人を思いやり、けじめのある学校生活を送らせ、学習に励ませる。	命・人権を大切にし、他人を思いやる心を育てる。	B	B	B	授業にのぞむ姿勢は改善されつつある。基礎学力補充には対象者が参加し、少しずつ成果がでてきた。ただし、一部の生徒に行事等けじめのつかない状況が見られる。
		安全にバイク通学できるよう、交通規則の遵守を指導する。	B			
		けじめのある学校生活をおくり、基礎学力の充実をめざす。	C			
第3学年部	他人を思いやり、責任ある行動をとれるよう上級生としての自覚を育てる。	学校の中核となる自覚を持ち、責任ある行動をとる。	B	B	B	上級生としての自覚がもてたが個人差があるが、大半の生徒は、生徒会・農業・家庭クラブ等で活躍できる人材として成長できた。卒業後の進路も具体化し、進路実現に向けて取り組みがすすんでいる。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	B			
		自らの進路希望を具体化させる。	B			
第4学年部	進路目標実現に向け、あらゆる活動を通じてよりよい人格の形成を促すことを目指す。	授業を大切にし、日常生活においても自覚ある行動をとる。	B	B	B	上級生としての自覚を持たせることができた。早期からの家庭との連携により、全員の進路実現が決定し、互いに協力し合い高め合う姿が見られた。進路決定後も家庭連絡を継続的に密に続ける必要がある。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	B			
		最上級生として、リ・ダ・シップを発揮し、下級生の手本となる行動をとる。	B			
		家庭との連携を強める。	B			
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じたプリントや副教材の準備等の工夫をする。	B	B	B	生徒の授業への興味を持たせ、学力向上のための工夫をした。具体的にはプリントの作成、「授業点」を与えて積極的な参加を促す等。学力補習も行った。
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行い、随時国語常識学習も行う。	B			
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。	B			
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。	B	B	B	生徒が少しでも、数学に興味を持てるよう、プリントやカード等を使うなど授業を工夫した。また、理解不十分な生徒に対しては個別に指導した。その中では個々の生徒の弱点等を把握しながら、効果的な指導に心掛けた。
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。	B			
		演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。	B			
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。	B			
保健体育科	生涯を通じて継続的に運動できる能力と態度を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	学期に1回レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる。	B	B	B	生涯を通じて継続的に運動に親しむことが出来るように一年間を通して様々な種目に取り組むことが出来た。特に球技ではチームワークを考えたプレーが出来、苦手な生徒にも励ましの声を生徒同士でかけられるようになった。
		2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。	B			
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。	B			
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。	B			
英語科	中学校の学習を踏まえながら、四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	4技能(聴く、話す、読む、書く)をバランスよく学習させる。	B	B	B	4技能をバランスよく教授することができた。AETとの授業においては、自己表現活動を多く取り入れ、実用的な英語に接する機会を増やした。学習遅延生徒については、必要に応じて補充指導を実施した。
		生活に根ざした自己表現活動を積極的に取り入れる。	B			
		学習遅滞生徒に対して、年間を通じた補充指導を行う。	B			
		1年次は中学校の復習に力点を置き、基礎学力の向上を目指す。	B			
		オーラルコミュニケーションは音声言語に特に力を入れる。	B			
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する。	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える。	B	B	B	個人情報の管理には細部にわたり注意を払った。文書の作成起案回議は適切に行われた。今年度より校務システムを導入し成績処理に活用した。
		文書は適切に作成、起案、及び回議する。	B			
		成績処理のネットワーク化を進める。	B			
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。	B	B	B	担任を中心として家庭との連絡を密にした。育友会活動は積極的な学校行事への参加がみられた。学科の特性を活かした地域との連携を実施した。
		地域社会・関係諸機関等の行事に参加するなど積極的に連携する。	B			
		育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。	B			
次年度に向けた改善の	生徒指導・学習指導・進路指導等教育活動全般について、個に応じたきめ細かな指導の取り組みを充実させる 多様な生徒に対処するため、関係機関との連携を深め、校内外の研修への積極的な参加を図り学校としての対応を図る。					

(別記様式)

方向性

前例踏襲にとらわれることなく学校行事等の見直し・精選をすすめ、現状に見合う学校作りを進めていく必要がある。
生涯教育を見通した学校教育の実践を図る。